



伝える



つなげる



No.
410



ひびきあう



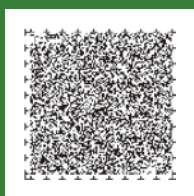
今月の表紙写真は県社協職員が訪れた鈴鹿市内
「青空の下、コスモスの彩りに包まれた秋景色」
の様子をお届けします。

テーマは
「旅行先の景色や思い出」
三重県内の風景や美味しいもの、
おすすめスポットなどを
ぜひ、おすそ分けください！

写真の投稿はこちらから

あなたの写真が世界への冒険を共有し、
福祉の魅力を広める一役を担うかもしれません！

福祉みえでは、2～4ページの
特集記事に uni-voice による
音声コードを導入しています。



Uni-Voice音声コード

contents

- 特集：災害ケースマネジメントの取り組み 2
- Mee ちゃんまつり 2025 5
- ナゾときカイゴ探偵団を高齢者施設で実施しました 6
- ありがとうメッセージ 8

ふれあいネットワーク



社会福祉法人 三重県社会福祉協議会



「災害ケースマネジメント」をご存じでしょうか。個別支援アプローチを用いて、被災された方の再出発を支援する考え方や手法です。

今号では、三重県防災対策部 地域防災推進課に、三重県での取り組み状況を伺いました。

1

はじめに

日本は有数の自然災害多発国であり、地震、台風、豪雨、土砂災害などが全国各地で頻繁に発生しています。こうした災害が発生すると、住まいの喪失、収入の減少、健康の悪化など、被災者の生活は一変し、特に高齢者や障がい者、低所得世帯、ひとり親家族などの社会的に不利な立場にある被災者は、より深刻な影響を受けます。

災害からの生活再建には、多様な支援制度が存在しますが、申請に基づき支援を提供する従来の被災者支援の手法では必ずしも十分に被災者の自立・生活再建に結びつかないことがあります。そこで注目されているのが「災害ケースマネジメント」

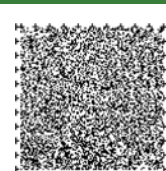
という個別支援のアプローチです。これは、被災者一人ひとりの生活状況を県や市町が関係機関と連携して把握し、必要な支援をコーディネートしていく取り組みであり、近年の災害では必須の支援手段となっています。

本稿では、災害ケースマネジメントの基本的な仕組みや、各地での実践事例、導入における課題、三重県の取組、そして今後の展望について記述します。

2

災害ケースマネジメントの基本的な枠組み

災害ケースマネジメントは、災害時に被災者が抱える生活上の課題に対し、福祉・医療・住宅・就労等の



多様な支援策を組み合わせ伴走支援を行う手法です。特に制度の谷間にある支援困難な状況への対応が期待されています。基本的には以下のプロセスで構成されています。

①アウトリーチ（ニーズの把握）

災害発生後、被災者の生活実態を把握するため、相談員や支援スタッフが自宅や避難所、仮設住宅などを訪問し、生活・健康・経済・住宅・人間関係などに関する多角的な聞き取りを行います。ここで得られた情報は基礎資料となります。

②個別支援計画の作成

把握した課題に応じて、市区町村が主体となり、支援対象者ごとの計画を作成します。行政の支援制度だけでなく、民間のサービスや地域の助け合い、ボランティアなども含め、支援の選択肢を広げることが重要となります。

③支援の実施と連携

多様な支援機関との連携・調整を

行いながら、支援実行に移します。関係者間で定期的なケース会議を開催し、情報を共有しながら、必要に応じて支援の見直しを行います。

④フォローアップと自立支援

支援は一過性ではなく、被災者の生活が安定し、自立するまで継続されます。特に仮設住宅からの退去や就労再開など、生活の転換点での支援が重要となります。

このように、災害ケースマネジメントは単なる制度の案内ではなく、関係機関をコーディネートしながら、被災者に寄り添い、生活の再建を支えるプロセス全体を意味します。

3

各地の実践事例

①宮城県仙台市

（平成23年東日本大震災）

東日本大震災での被害をふまえ、「生活再建可能世帯」、「日常生活支援世帯」、「住まい再建支援世帯」、「日常生活・住まいの再建支援世帯」に分類、今後取り組みべき課題を整理した「被災者生活再建推進プログラム」を策定し、応急仮設住宅への個別訪問による見守り支援等を実施して生活再建を進めた。

②熊本県、市町村

（平成28年熊本地震）

熊本地震では、多くの仮設住宅やみなし仮設に入居した高齢者が孤立し、支援の必要性が高まった。熊本県と市町村は、地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し、早朝から「生活支援相談員」を配置して戸別訪問を実施。支援困難ケースについては多職種によるケース会議を開催し、医療・介護・福祉の連携により課題解決を図った。

③岡山県倉敷市真備地区

（平成30年7月豪雨）

倉敷市真備支え合いセンター（運営：市社会福祉協議会）を設置し、県の後方支援組織である岡山県ぐらし復興サポートセンターとも連携しながら、倉敷市外へ避難・転居した世帯も含めて戸別訪問や見守り相談支援を行った。

4

導入にあたっての課題

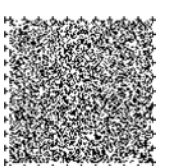
災害ケースマネジメントの実施には多くのメリットがある一方、運用においては様々な課題があります。

①人材不足と育成

災害ケースマネジメントを担う支援者には、福祉制度の知識、調整力、コミュニケーション能力など幅広いスキルが求められます。この

よつな人材

を確保する



ため、平時の研修機会の確保や災害支援ネットワークの形成が求められます。

2 情報共有の壁

個人情報取り扱いや組織間の縦割りにより、支援対象者の情報共有が滞ることがあります。共通フォーマットの導入や包括的同意の取得、災害時の運用ルールなどが必要となります。

3 制度の複雑さ

災害関連制度（災害救助法、被災者生活再建支援法、住宅再建制度など）は複雑で被災者にとって分かりづらいものとなっています。支援制度の一覧化やガイドブックの配布、窓口のワンストップ化が必要となります。

4 市町間の地域資源の違い

市町の職員数や財政、専門職人材の有無により、災害ケースマネジメントの体制整備に差が生じます。国

や県による広域的な支援体制の構築や、マニュアル・指針の統一により格差を是正する必要があります。

5

三重県取組

三重県では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地へ派遣された職員の支援活動を通じて得た気づきを南海トラフ地震対策に生かすため、令和6年10月に課題ごとの対策の強化に向けた取組の方向性をまとめた『南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針【発災当初から復旧フェーズ版】』能登半島地震支援活動の「気づき」をふまえて」を策定しました。

この取組方針では災害ケースマネジメントの取組方針として、市町において災害ケースマネジメントの導入が進むよう、取組を行うにあたっての標準的な体制や手法等について

示した指針を策定することとしています。

災害ケースマネジメントには前述のとおり、さまざまな課題があり短期間では解決できない課題も多くあります。このため、三重県では令和7年度に県関係部局や市町、県社会福祉協議会をメンバーとした研究会を立ち上げ、「災害ケースマネジメント促進に向けた指針」策定に向けて検討を行っています。

6

おわりに

災害ケースマネジメントは、被災者一人ひとりの声に耳を傾け、複雑な生活課題に応じた支援を調整していくための重要な枠組みです。災害が「誰もが被災者になる可能性」を持つ社会的現象である以上、被災者を一律に支援するだけでは、生活再建の格差や支援漏れが生じるケースがあります。

今後、想

定される南

海トラフ地

震や激甚化す

る風水害への備え

として、平時からの災害

ケースマネジメントの整備、関係者

間の信頼関係の構築、迅速な被災者

支援制度の運用などが求められます。

誰一人取り残さない被災者支援を

実現するために、災害ケースマネジ

メントが県内で定着するよう県と市

町や関係機関が連携した取組を行っ

てまいります。



Uni-Voice音声コード

三重ボランティア基金

第2回チャリティーイベント Meeちゃんまつり2025



日時 令和7年12月6日(土) 11:00 ~ 15:00

場所 三重県総合文化センター 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

注目
その1

マルシェ・バザー・ キッチンカー大集合!

スイーツやフードなど、地元で人気の美味しいお店や、手作り雑貨の素敵なお店が知識の広場と祝祭の広場に大集合します♪



注目
その2

音楽&ダンスの 見どころ満載ステージ発表♪

高校生や大学生によるダンスやよさこいステージ、ボランティア団体による音楽ステージ、そしてキッズダンサーによるパフォーマンスをご覧ください!



注目
その3

ボランティア活動 知ろう!体験しよう!遊ぼう!

県内のボランティア活動のご紹介や、ボランティア団体による体験ブースです!また、子どもから大人まで楽しめる“募金 de 縁日”では、募金をしていただくことで縁日にご参加いただけます!ぜひご協力ください。

注目
その4

スタンプラリー &ビンゴ大会の特別企画♪

会場内を巡ってスタンプを集めると、ビンゴ大会に参加するためのカードと参加賞をプレゼントします!ビンゴ大会の景品は、素敵な商品がたくさん!お楽しみに!!

支援 BOX を設置します!

- 書き損じはがき・使用済み切手の回収 BOX
 - 募金箱
 - フードドライブ BOX
- 皆さま、ぜひご協力ください!

問い合わせ先

公益財団法人
三重ボランティア基金

TEL 059-227-9994

MAIL vkikin@miewel.or.jp



当会では、令和6年度に福祉・介護の魅力発信事業（三重県委託事業）の一環として、(株) Blanket の協力のもと、楽しみながら介護の仕事について学べる「ナゾときカイゴ探偵団」を作成し、学校や地域で開催しています（詳しくは『福祉みえ』令和7年2月号をご覧ください）。

今回、社会福祉法人三重ベタニヤ様より実施の依頼を受け、令和7年8月22日（金）に同法人の地域密着型特別養護老人ホーム グレイスホームにて開催しました。開催にあたり、同法人の職員の皆様にイベントスタッフとしてご協力いただきました。

当日は、小学生とその保護者 計14名が参加し、ナゾときカイゴ探偵団への入団テストとして、「施設内に隠された介護の仕事を見つけ出せ！」というミッションに挑戦し、介護に関するクイズや介助体験、ユニット・施設内見学、ソフト食体験などを通して、介護の仕事を学びました。

参加者は、三重ベタニヤの職員からの説明を熱心に聞き、普段できない体験にわくわくしながらミッションを進めていました。



参加者のアンケート

参加した子どものうち、87.5%が介護の仕事を「理解できた」と回答し、さらに75.0%が介護の仕事に「とても興味を持った」「少し興味を持った」と回答しました。また、保護者の全員が介護の仕事に「とても興味を持った」「少し興味を持った」と回答しました。このように、子どもだけでなく保護者にも介護の仕事の魅力を伝えることができたことが示されました。

ご協力いただいた三重ベタニヤの職員からのメッセージ



事務課長 小林 信行 さん

「福祉みえ令和7年2月号を見て、おもしろそうだと思います。福祉や介護の仕事を知ってもらい、興味を持ってほしいと考え、実施を希望しました。職員が自分の仕事を自分の言葉で伝える貴重な機会にもなったと思います。」

介護職員 松原 翔平 さん

「これまで自分の仕事を伝える機会はありませんでした。説明するのは、緊張しましたが、みんな積極的に参加してくれました。介護は大変なイメージがありますが、『ありがとう』と言ってもらえるやりがいのある仕事です。子どもたちには、こうしたイベントなどの機会ですぜひ介護の仕事を体験してほしいです。」



おわりに

「うちの施設でやってみたい」「もっと詳しく知りたい」という方は、事務局までお問い合わせください。（☎ 059-227-5160）

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	
		基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額		4,000円
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

商品パンフレットは
コチラから



(ふくしの保険
ホームページ)

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)



ありがとうメッセージ

～ 心も一緒に届いています ～

社会福祉法人 大台町社会福祉協議会

令和6年度実施事業

福祉教育推進事業

大台町社会福祉協議会では、福祉教育の充実を図ることを目的に福祉教育やボランティア活動等に取り組む町内の学校を福祉協力校として指定し、助成を行い福祉教育推進事業を行っています。

令和6年度はお米作り学習で収穫したもち米を使用して、児童が地域の方々とともに餅つき体験を行いました。

お米作り学習では、地元の建設会社のご協力により「田んぼの田起こし→田植え→収穫→食事を作る」といった一連の流れを学ぶことができました。

共同募金により、地域の基盤である小学校を軸に地域の方々が集まり、日本の伝統文化であるお米作り、食に関する知識等を学ぶことができ、世代を超えた繋がりができました。

共同募金にご協力いただき、ありがとうございました。



特定非営利活動法人 快生教学会

令和6年度実施事業

認知症への正しい理解のための啓発運動

快生教学会は、互いに助け合いながら生きがいを創出していく地域づくりに挑戦するとともに、地域での介護予防に対する意識の向上により健康な町づくりに貢献することを目的とし、活動しています。

共同募金を活用し、一般社団法人 はるそら代表の多田 美佳 氏をお招きし、「本人、家族、そして仲間たちが一緒に考えた『伴走支援』」をテーマとした講演会を開催しました。より多くの人たちに認知症の理解を深めていただく機会を提供することができました。今後も認知症の人とその家族が、どこで暮らし、どんな状態でも、尊厳と希望を持って自分らしく暮らせる地域づくりと当事者に寄り添った伴走支援をすることを目指していきます。



発行人 井村 正勝

編集人 横田 浩一・広報委員会

発行所 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目131

TEL : 059-227-5145 FAX : 059-227-6618

URL : <https://www.miewel-1.com/> E-mail : info@miewel.or.jp

編集協力 株式会社アイリック

2025年11月号(通巻410号) 令和7年11月発行

「福祉みえ」は三重県社協のホームページでもご覧になれます。また、広報に関するご意見・ご感想は、E-mailにて受け付けております。